

## さくらだより

vol. 6

2021年6月18日発行

仲間たちへの  
感謝や信頼

「よし、バーベキューをしよう！」

現場に余裕があるとき、社長が突然そんな声を上げることがあった。慌てて資材や道具を片づけてテーブルを準備し、買い出しに向かう。忙しい日常を忘れて焼きたての肉や魚を仲間たちと楽しみ、たわいない話題で盛り上がる時間は、何ものにも代えがたいひとときだった。2020年以降は新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、食事をもにする機会が激減。寂しさはあるが、ともにテーブルを囲んだ日を思い出すと、今でも自然と気持ちが出るという。

社長を筆頭に、明るく陽気な仲間たち。その一方で、いざ仕事が始まれば全員の顔つき

家族の笑顔から  
元気をもらう

が変わり、それぞれが真剣に業務に臨む。多くを語らなくとも分かり合い、自然にサポートし合える関係性はまさに阿吽の呼吸。楽しいときには笑い合い、苦しいときには支え合う、そんな大切な仲間たちがいるからこそ、今日まで歩みを重ねてこられた。素晴らしいメンバーに出会えて切磋琢磨できることに、感謝の気持ちしかない。

職場を離れば、一児の父でもある寺澤。2021年春に小学生になったばかりの息子は元気いっぱい、屋外を駆けまわって遊んでいる。髪にも服にもたくさんの葉っぱをつけて笑っている子どもの姿を見ると、寺澤も自然と元気になれる

てら さわ あさ ひろ  
寺澤 彰洋

配管 工事主任

(前編に続く)

現場ごとにプレッシャーを感じながらも、長年にわたって配管に携わり続けてきた寺澤彰洋。決して楽な仕事ではないが、今日まで走り続けてこれたのは、ものづくりが好きだから。そしてそれ以上に、さくら株式会社の魅力があるからにほかならない。ものづくりや会社、仲間たちに対する思い、そして休日のプライベートな一面にも迫った。

達成感を  
モチベーションに  
変えて

「現場の最終日には、自分たちの手がけた配管を見てまわるのが習慣です。何もなかった場所に建物が完成し、その配管を自分たちが担当したのだと

という。釣り堀に足を運び、自分たちで釣り上げた魚を塩焼きにして食べるなど、家族で過ごす休日はかけがえのない時間だ。いつか子どもが成長し、そんな日常の一場面を良い思い出として振り返ってくれば嬉しい限りである。

現場が遠方になれば、半年から1年にわたって出張となる場合もある。家族と離れるのは寂しいが、毎日電話で明るい声を聞くと、張りつめていた心が安らぐのを感じるという。

「今日は小学校で、こんなことをしたよ！」

何気ない会話から大きなエネルギーをもらい、「明日もがんばろう」と気持ちを新たにできる。家族の存在は、言葉ではない表せないほど大きな支えなのだ。家族や仲間への深く温かい気持ちを胸に、寺澤はこれからも走り続ける。

思うと、感慨深さで胸がいっぱいになります。その達成感があるからこそ、今日まで来ることができました」。

ものづくりの魅力を、肌で感じる瞬間。達成感を味わいつつも、「次はこの部分をもっと改善しよう」と、反省点を見つけることも忘れない。2021年5月には、クリーンセンターの焼却設備という大きな現場がスタートする。工期前半は、打合せ等をメインに行う予定だ。作業の進捗状況により、メンバーの増減や入れ替わりの可能性もある。明るい雰囲気の中で一人ひとりが存分に実力を発揮し、スムーズに作業が進むよう、余裕を持って段取りを組んでいくつもりだ。

## 企業情報

設立年：2012年4月  
年商：608,257,000円  
※2020年3月決算時点





## インタビューを飾ってくださった

# 寺澤さんってこんな人!

巻頭インタビューに登場していただいた寺澤さんと親しいお二人に、思い出やエピソードをお伺いしました!「頼れる」だけでは表せない存在だという、そのわけは……?

### 寺澤さんとの関係性

寺澤さんの部下として、1年半の間一緒に仕事をしています。

#### メッセージをお願いします!

これからも、もっと色々教えてください! ゴルフで18ホールを一緒に回ることを楽しみにしています。

### 寺澤さんを一言で表すと?

「頼れる」だけでは言い表せない存在です。初めて現場を一人で任されたときに、見守ってくださったことを覚えています。危険がないか、私がしっかり仕事をしているか心配してサポートしてくださいました。後輩への優しさを感じましたし、より一層信頼するようになりました。その他にも沢山のエピソードがありますが、多過ぎて絞れません(笑) 仕事だけでなく、プライベートでも見習いたい部分が多くあります。公私共に通じる、ブレない「芯」を持っているように思います。

配管施工  
さとう かつら  
佐藤 桂さんより

### 寺澤さんとの関係性

敢えて言うと、他人です(笑) いや、私の一番弟子かな(笑) 嫌なら報告してください(笑)

### 寺澤さんを一言で表すと?

私にとって、頼りになる存在です。今では何の心配もありません。かえって最近では、「終わりますか?」「私行きますか?」と心配されています(笑) 16年程前、新潟の長岡帝国石油で仕事をしたとき、彼に助けもらったことを今でも覚えています。夜間の仕事でした。メインラックの500Aの配管!覚えているかな(笑)内容は、長くなるのでご了承ください。

配管施工 専務  
ちば しんや  
千葉 真也さんより

#### メッセージをお願いします!

色々ありがとう!これからも宜しくお願いします。  
あと、私に優しくしてください(笑)  
＼(・ω・)ココ重要!

## 歴史の偉人名言

### 豊臣秀吉

名言には、モチベーションアップや背中を後押ししてくれる作用があります。  
今回は、著しい出世劇をみせた、豊臣秀吉の言葉をご紹介します。  
数百年前の言葉がいまだに言い伝えられていることもあり、そのエッセンスは現代社会にも応用することができるでしょう。

サル・日吉丸・藤吉郎・秀吉・大閤、これもまた皆が嫌がるどころでの我慢があつたればこそ。



意味: 農民の子に生まれ、信長様に仕えて「サル」と呼ばれていた頃から、人が嫌がることも率先してやってきた自分。このように辛くても努力し続け、チャンスをうかがい、活かしてきたからこそ今の自分がいる。

豊臣秀吉は出世するたびに名前を変えていきます。最初と最後は名前ではない(猿は信長からの呼称、太閤は元関白という意味の朝廷における称号)ですが、周りに呼ばれていた名前を振り返ることで、自分が出世してきたことを噛み締めつつ思い返したようです。農民上りの豊臣秀吉には、当然周りからの扱いがひどく、結果を出しても因縁をつけられるなど我慢の繰り返しでした。それでもこまめめげずに頑張っ、のし上がってきたのでしょう。時には我慢強く耐えながらも、やり続けて行くことの必要性を教えてくれる名言です。

### 豊臣秀吉とは

戦国時代から安土桃山時代にかけて活躍した武将・関白・太閤。織田信長や徳川家康と共に「三英傑」の一人と称される人物です。改名は「日吉丸→木下藤吉郎→羽柴秀吉→豊臣秀吉」。尾張国愛知郡中村郷の下層民の家に生まれ、当初今川家に仕えるものの出奔した後に織田信長に仕官。信長のもとで次第に頭角を現し、本能寺の変で信長が明智光秀に討たれると兵を率い、山崎の戦いで光秀を討ち取ります。織田家内部での勢力争いを経て、信長の後継の地位に就任。大坂城を築き関白・太政大臣となつてからは豊臣姓を名乗り、日本全国の大名を臣従させ天下統一を果たしました。